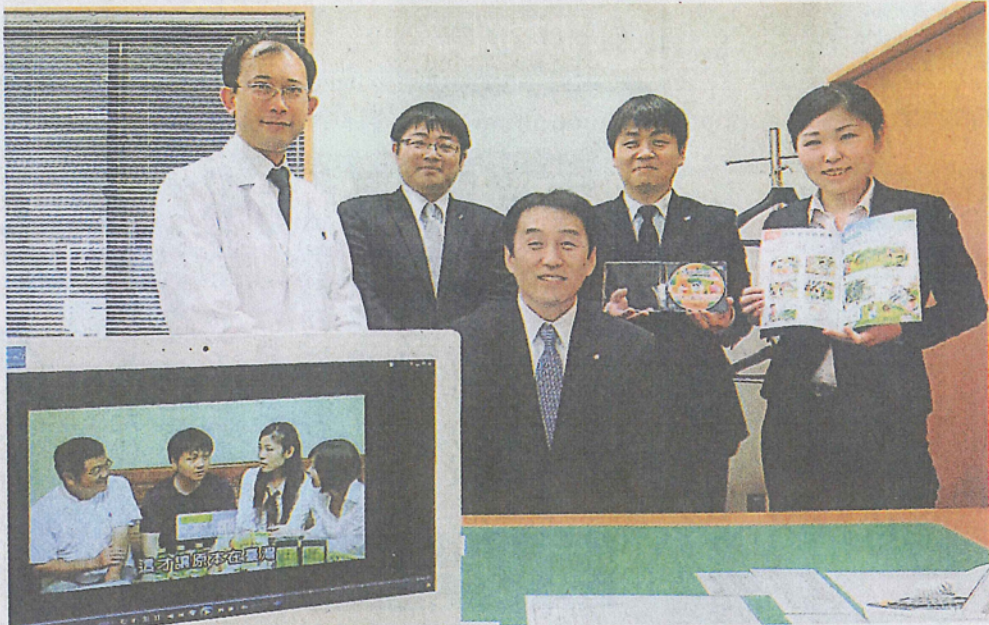


台湾企業を訪れた森本茜さん（右端）と吉永光宏さん（右から2番目）が、台湾の社会科教材のDVD映像で紹介されている



川崎町のマルボシ酢研究所

台湾の教材で紹介

川崎町の一般財団法人「マルボシ酢・アスキー食品技術研究所」が、台湾の小学校社会科の教材になった。台湾の企業と取り組んでいるシークワサーの原種の保存や普及が評価された。指導研究員の星野宗広会長（48）は「貴重な原種を守り、日本と台湾の交流にも役立ちたい」と喜んでいる。

小学3年社会科で活用

教材は、今年の小学3年の社会科教科書に添付されているDVD。台湾南部・屏東県の特産品としてシークワサーの原種を紹介。地元の栽培・加工会社を訪れた研究所員の吉永光宏さん（35）と森本茜さん（24）が、農園や工場での説明を聞く様子を収録している。

教材は、今年の小学3年の社会科教科書に添付されているDVD。台湾南部・屏東県の特産品としてシークワサーの原種を紹介。地元の栽培・加工会社を訪れた研究所員の吉永光宏さん（35）と森本茜さん（24）が、農園や工場での説明を聞く様子を収録している。

研究所によると、沖縄や台

2年9月、屏東県にある約60

シークワサー原種 保存協力

紗の畑で原種を栽培・加工しているこの会社と業務提携し、年間35〜40トンの果汁を購入している。安定的に購入することで多くの農家に栽培を促しているほか、交配しないよう他のかんきつ類から300以上離して栽培することを取り決めた。今後、研究所が調べた原種の成分の分析結果を屏東県の研究機関などに提供する。

星野会長によると14日、栽培・加工会社の社長から電話があり「教材に載りたいへんうれしい。お互いの関係をもっと深め、すばらしい原種を世界に広めたい」と言われたという。

（中川博之）